

意見交換会顛末（教育・スポーツ・まちづくり等分野）

令和7年11月19日 18時00分～

◎名寄市の発言

時間作っていただき感謝。

名寄市総合計画（第3次）策定の参考とさせていただく。

せっかくの機会なので、堅苦しいかたちで行うのも勿体無い。

役所職員が囲む形となるが、気にせず発言をいただきたい。

それぞれの団体で感じている課題やまちづくりに関する意見など伺いたい。

■参加者の発言

交通安全協会は、名寄警察署の管轄の中で活動しており、免許更新の対応をしている。市民でも連合会に加入している方は少なくなってきたのではないかなと思う。今まで事務員がやっていた事務が機械化されてしまって、入会の声掛けをする機会が減り、入会する方が減ってしまったと感じる。

交通安全の仕事はボランティアで行っている。存続がどうなっていくかがわからない。あり方、意義などについて考えないといけない。市民の方は免許更新の事務について行政がやっていると思っていて、連合会でやっているという認識もない。

■参加者の発言

防犯協会自体はボランティアで運営している。安心安全のための活動をしており、必要なことだと感じている。警察の生活安全課に場所を借りている。（部屋の借用料や車の駐車料金も取られている。）市から人件費の補助も受けている。市の補助の見直しがされていると思うが、なかなか足りていない状況。行政にとって必要な分野であると思う。

■参加者の発言

来年の夏に名寄中学校が新校舎に移転となる。学生が地域の方との接点が少ないと感じる。うまいことできないかなと思う。中学校から高校に進学するが、名寄高校への進学率が低くなっている。高校をこれから先、どのように運営していくのか考えて欲しい。スポーツについては、テニスコートを新しくして欲しい。総合運動公園のような場所を整備している自治体もある。色々なスポーツを集約した場所があるといいと感じる。職種上、お客さんから観光について聞かれるが、スキー場くらいしか思い当たるものがない。通年で観光できる目玉が無いと感じる。またホテルに泊りきれない状況がある。宿泊事業者を誘致できないか。

■参加者の発言

学校と色々と連携している。行事をする時に手伝いあっている。コミセン、老人クラブ、地区連絡協議会など。名寄市の補助を得ながら行っているが、多少、町内会の持ち出しもある。小学校を周回するマラソン大会、交通安全教室なども行っているが、そういう機会にも協力を行っている。

これから先は高齢化していくので、それぞれの団体で後継者を作って活動を繋いでいけるかが課題としてある。

■参加者の発言

風連地区もまちづくり交付金を活用してクリーン作戦を行っている。協議会と別に町内会長さんが資金造成のためにビールパーティーを開催し、小中学校に資金提供をしてくださった。その資金は、中学校の吹奏楽の全道大会出場の際に役立った。全道、全国大会に参加する子どもたちのために、部活動などへの補助をお願いしたい。自分たちも地域の子どもたちを地域で育てるために頑張っていく。

■参加者の発言

地域の企業などと協力して学生が各企業を回る体験事業を行った。6年生は食をテーマにした学習として、智恵文のじゃがいもの貯蔵施設や農家を訪問し、説明を受け、地元の食材を使ったメニューを考案した。

アンケートで若者のUターン支援が望まれているとあるが、子どもたちに名寄市の良さを知ってもらうために、各分野で名寄市を好きでいてもらうための活動に取り組んでいきたい。

名寄高校の運営協議会にも参加している。委員で面接の練習を行ったりした。

名寄高校応援団も設立されたので、新たな動きが見られるのではないかと期待。

不審者情報が数年前より減っており、安心しているが、地域のこどもを守る観点では、新入生が入ってきた時期の見守りはできているが、常にできているわけではない。もっと力を入れていかなければいけないと感じている。学校からも依頼しにくい状況などがあるよう。

■参加者の発言

智恵文に来て3年目。市街地から通う子どもたちが増えている。

子育て世代に選ばれるまちづくりが必要と思う。

名寄市は道北の基幹都市であると思う。財政で見ると民生費が増えて、教育費は増えていない。周りの市町村から名寄市に来てくれる人を確保していくべき。まちとしてコンパクトに統合していく必要があると感じている。

できるだけかかるコストを削減し、新しいものに投資していく必要がある。

今の子供たちが名寄市で住み続けたいと思えるようにするために、長いスパンで考える必要があると感じる。他で財政が圧迫される分、教育費に使えていない。

■参加者の発言

少人数で地域と協力して運営している。学校の活動については満足している。学校行事で、いかだくだりをしているが、今年度はクマの出没によりできなかった。

代わりの行事として気球の体験をしたが高額であったため、毎年はできないかなと感じている。

教員住宅が古くなっている。

自分の娘が「あいあい」に入れなかった。

東保育所から3歳になって出る時に他の保育所に入れるといい。

保育所に入れると仕事も十分に行っていける。

自分は農家であるが、農家としてもいい環境になっていくと感じる。

■参加者の発言

市P連のメインは、保護者と先生とのつながりである。都会ではPTAのないところもある。地域と学校、先生と保護者の関係が重要と感じる。子どもを育てる上で、色々な人の支援が必要である。中学校になると地域との関わりが少なくなるという肌感覚はあるが、地域と学校をうまく繋いでいく必要がある。

部活動の地域展開の話が出てから、各保護者からの質問が多くなった。PTAに興味を持ってきている。部活動の地域展開は先生と保護者の連携が大切である。部活動は、先生としての業務なのかボランティアなのかという問題も出てきている。また、行事は平日にするなど、考えていけないといけない。時代に対応した先生とのつながりを考える。

■参加者の発言

部活動の地域展開の部分で、説明会にも参加した。スケジュール感について知ることができ、とてもいい機会だった。行政とスポーツ団体がうまく連携することが重要。現状、令和7年度で地域展開の話がどこまで話が進んでいるのか伝わっていない。名寄市の住民にPRしてもらえると伝わると思う。

■参加者の発言

地域の方の協力を得て、地域人材を活用した授業を展開している。瑞穂の農家に協力いただき、田植えから収穫まで半年かけて農業学習を行っている。地域資源を活用した良い取り組みである。子どもたちももち米の生産量日本一に誇りを持って取り組みを進めている。4月に赴任して半年経ったが、この取り組みは20年以上継続されており、学校の魅力の一つである。課題としては少しずつ人が減っている。取り組みを絞ったり、集約したりするなど検討をしていく必要があると感じる。持続可能な形を探っていく必要がある。

■参加者の発言

社会教育委員は社会教育の色々な立場から意見を言う立場であり、子どもたちを地域で見る時に色々な立場があるが、社会教育は色々なジャンルで案を出し合って活動している存在であると感じている。配慮・支援が必要な子どもたちを含めて考えていく必要があり、社会教育委員が役割を果たしていけると感じている。

部活動の地域展開の講演会に出た。名寄市の部活動はスポーツ中心に感じるが、文化部だと吹奏楽だけにスポットが当たっている気がする。地域で見ると他にも活動がある。そのようなところを含めて子どもたちの活躍の場を作っていく必要があるのではないかと感じている。

子どもを地域で見守る、一度離れても帰ってきてもらうために、人の魅力は重要。あの時に活躍していた人がいたなという記憶などが残る。大学の新入生に聞くとまちの人に親切にもらった記憶が強く残っているということも多い。

■参加者の発言

昨年赴任してきた。名寄市が特別支援について理解が深いまちというのが率直な感想。風連中央小では、スペシャルオリンピックスの力を借りて、大きなイベントも行った。名寄市立大学がサークルを発足して手厚い活動が続いている。切れ目のない特別支援の推進を考えた時に、高校の3年間の特別支援に関する支援や体制があるのか気掛かりであり、支援が見えない。また名寄市が今後まちづくりにおいて特に力を入れるべきこととして、若者の地元定着の意見が多いが、名寄市の高校生や大学生はどう思っているのか。名寄市の高校生・大学生が名寄市に定着する意識があるのか把握できていないと感じた。

総合計画の中でその記述があってもいいのではないかと感じた。

■参加者の発言

今年の6月に統合し、スポーツイベントの運営などを実施。4つの組織体制専門委員会を立ち上げ、それぞれで課題確認し、委員会で協議を行っている。

部活動の地域展開について、剣道は済んでおり、風連中央小が拠点校として進んでいる。Nスポでビジョンをたてて考えている。世界に誇れる地域健康モデルの確立・科学的根拠に基づいたウェルビーイングの検討・寒冷地特有のモデルの確立など。

体育館の整備運営をPPPの活用など官民連携による運営を検討している。

現在市内においては体育館の奪い合いになっている状況であり、東中学校の体育館の活用を視野に入れている。スポーツを取り入れた幼児教育の実践も必要。学生寮の中に休業中にスポーツ合宿の受け入れに活用するなど。

■参加者の発言

名寄中学校の向かいに46年住んでいるが、地域から見て学校の様子はわかるもの。中学校の文化部で言うと、今年新たに北海道で中文連が立ち上がった。まだ各学校に浸透していないと思うが、吹奏楽や美術部について、学校の枠が外れて活動できればいいと思っている。

名寄市と風連の文化協会について歴史を尊重して活動を行っていくのがいいと思うが、もっと交流を行ってもいいのではないかと。風連は11月3日、名寄は11月の最初の土日である。互いの交流もできる。施設もお互いに使いあっているのではないかと。文協祭りについても調整しあっているのではないかと。

そういう機会を持ち、文化振興のために連携をしていきたい。

■参加者の発言

合併後に文化協会を統合したらどうかと市から提案を受けたが、それぞれの活動を行っている。風連には風連、名寄には名寄の文化がある。

補助金を減らさないで維持していただきたい。会員も団体も減ってきている。存続の危機もある。

名寄市の総合計画を見たら、文化に関する個別計画を確認できなかった。個別計画をわかるようにしてほしい。

■参加者の発言

活動が今年で 10 周年になる。名寄市と台湾の交流はさらに 3 ～ 4 年前くらいから始まっている。実際の事業は行政と分担して事業を実施。

中学生、高校生を台湾に派遣。中山大学と協定を結んでおり、中山大学の学生は名寄市でボランティア活動をして単位を取る。社協のおもちゃ博にも参加している。

子どもが台湾から帰ってきた時は文化の違いや言葉の違いなど刺激を受けて帰ってくる。多文化共生のためにも、名寄市を離れての経験は名寄市の宝になる。

郷土愛を育んで、いずれ名寄市に帰ってくるために取り組みを進める必要がある。

10 年間取り組み、全体の課題感などが見えた。道筋を見つけて可能性があるところにお金を注ぎ込んでいく必要がある。

■参加者の発言

町内会連合会は、それぞれの会員の協力を得て、住み良い地域を作るためにある。

地域における子どもたちは財産。大切に育てる。子ども会の活動など。少子高齢化の中で児童数が減少、教職員の確保も困難。農業も宿泊業も人材不足である。

先日、男女共同参画セミナーの記事が新聞に出ており、地域は寛容であるべきとの記載があった。

自分たちではわからないが地域の偏見があるのではないか。こういう機会で色々な話を聞いて、垣根を超えた連携が必要と感じる。

行政と協働のまちづくりは必然的に行っていくべきもの。それぞれの町内会で頑張っているが、活動にご協力いただけるとありがたい。